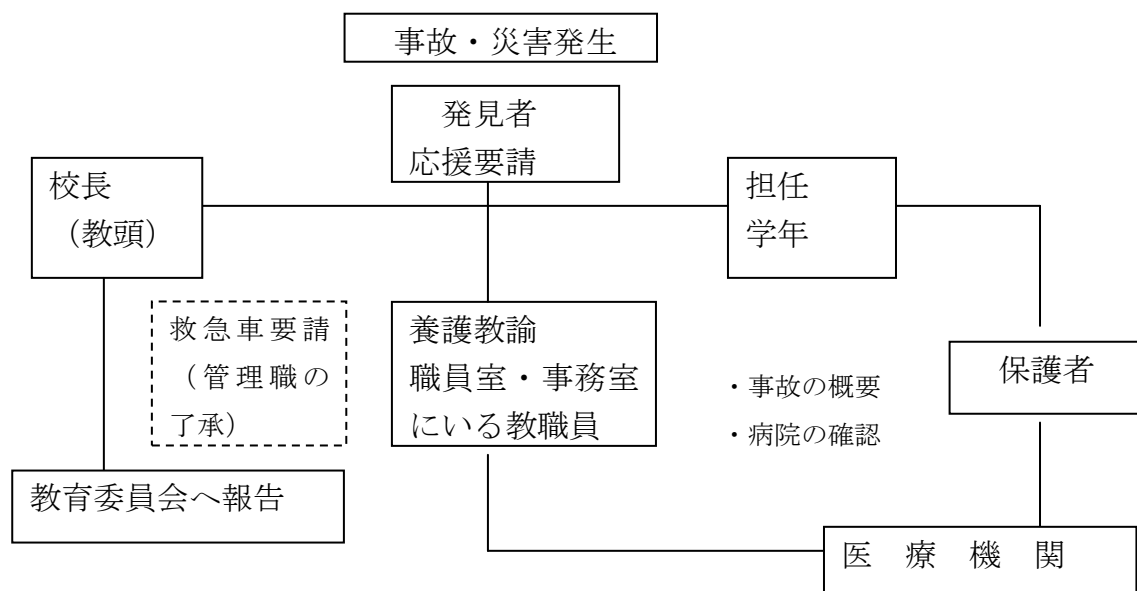


事故・災害時対応

① 災害時の校内救急体制



- ・ 病院選択は保護者の意向を優先
- ・ 病院へ行く前に事前に電話をする

② 発見者の心得

- ・ 事故の状況を見極め、その場を動かさない（頭・胸・腹・腰・首など）
- ・ 生徒の全身状態を観察する。
- ・ 周りの生徒や関係者から事情を聞き、必要に応じて記録をとる。
- ・ 「ひとりで判断はしない」を大前提に複数であたる。
- ・ 管理職には必ず、報告・連絡・相談をし、指示を得る。

③ 保護者への連絡

- ・ けがの状況を報告し、けがに対する意向を確認する。
- ・ かかりつけの病院があるか確認する。
- ・ ない場合は、学校に一任するかの確認をする。
- ・ 同行できるか確認する。（落ち着いて、事故のないように来てもらうこと）

④ 救急車を要請する基準

(日本学校保健会発行 保健主事の手引き(改定)抜粋)

呼吸停止・心拍停止がある	強い痛みがある
意識がない	大出血している
ショック症状である	骨の変形がある
けいれんをしている	大きな開放創
広範囲なやけどをしている	



***必ず管理職の了承をとる**

救急車の手配をするとき

電話 119

- 1 わたしは熊野中学校の〇〇です
- 2 救急車をお願いします。
- 3 場所は、熊野中学校の〇〇です。正門近くで教職員が待つて誘導します。
- 4 事故の内容は・・・・・・・・です。
- 5 けが人は・・・・・・・・人です。
- 6 けがの様子は・・・・・・・・です。
- 7 事故から〇〇分経過しています。
- 8 連絡先は、082-854-0109です。

⑤ 事故発生後の対応策

- 1 医療機関へは、必ず学校関係者が複数で付き添う(管理職と養護教諭か担任)。残った管理職が連絡係とする。
- 2 保護者にはその日のうちにけがの状況を丁寧に説明する。
- 3 事故発生の原因を追究するとともに、学校環境面や生徒間の問題行動などを明らかにし、施設の改善や生徒指導など安全対策と安全指導を見直す。(再発防止)
- 4 事故報告書を作成し、町の教育委員会へ報告する。(必要に応じて)
- 5 保護者に説明して日本スポーツ振興センターの手続きをする。

⑥ 事故報告書を必要とする場合

- 1 救急車で移送した場合。 ★ 電話で教育委員会へ第一報を入れておく。
- 2 身体や生命の危機に関わる場合。
- 3 けがで入院した場合。
- 4 加害生徒がいる場合。
- 5 後遺障害を残すか、その可能性がある場合。
- 6 保護者とのトラブルが発生する可能性がある場合。
- 7 その他、校長が報告を要すると判断した場合。(マスコミ対応、関係機関との関係)

⑦ 時系列で記録をとる

見 本

平成 年 月 日	
熊野町教育委員会教育長 様	
熊野町立熊野中学校 校長 ○ ○	
学校事故報告	
事故の種類	授業中における負傷
学年学級	○ 年 ○ 組
生徒氏名	△ △ △ △
発生日時	平成 年 月 日
発生場所	熊野中学校 体育館
発生時の場合	バスケットボールの試合中
事故の状況	
負傷の状況	転倒による頭部打撲 意識あり
学校の対応	★時間を追って記録を丁寧にとる。
○ : ○	事故発生
○ : ○	授業者から保健室の養護教諭へ連絡
○ : ○	養護教諭現場に行き、救急車要請の判断
○ : ○	管理職に報告。管理職が救急車を要請。
改善策・今後の課題；	

⑧ 応急手当の方法

日本赤十字社発行資料参考



止血

- 1 出血をしているところにガーゼやハンカチを当て、その上から手で押える（直接圧迫止血）。
- 2 血液が直接手に触れないよう手袋か手にビニール袋をかぶせること。
- 3 血液のついたタオルなどは捨てる。
- 4 出血部分を心臓より高く上げて止血をする。

擦過傷

- 1 けがをしたところを水道水などの流水でよく洗い流す。
- 2 傷が深い時や不潔な場合は水でよく洗った後病院へ行く。

やけど

- 1 やけどをした部分を冷たい水で痛みが軽くなるまで冷やす。
- 2 冷却したら、感染を防ぐためガーゼで軽く覆い、その上から冷やしながから病院へ行く。
- 3 衣服を着ている場合は、そのままにして急いで冷水をかける。

鼻血

- 1 出血している側の小鼻を圧迫し、口で息をしながら止血する。
- 2 ティッシュや脱脂綿はつめない。
- 3 頭のけがで耳や鼻から出血している場合は急いで病院へ運ぶ。

ハチに刺されたとき

- 1 針が残っていたら抜く。
- 2 発熱，吐き気，呼吸困難などのショック症状や発疹がみられたらすぐに救急車で病院へ運ぶ。

脳貧血

- 1 顔色が蒼白で冷や汗をかいている場合は、からだを水平か足を高くして寝かせる。
- 2 衣服をゆるめる。
- 3 倒れた時にけがをしていないか調べ、回復に時間がかかるときは他の病気も疑い病院へ行かせる。

歯が折れたとき・歯が抜け落ちたとき

- 1 折れた歯や抜けた歯を保存液（ない場合は、自分の歯肉と頬の間や生理食塩水）の中に入れて歯科医へ持参し、受診する。

捻挫・打撲・骨折

- 1 患部やその周辺をよく観察する。
- 2 その部分を安静にして動かさない。
- 3 冷やす。
- 4 見ただけでは判断できにくいので病院へ行く。

のどに異物が詰まったとき

- 1 咳が出るようであれば咳をさせる。
- 2 背中をたたく。
- 3 みぞおちより少し下を握りこぶしを当て、もう一方の手でそれを抱えるように握り後方で持ち上げるよう引く。

参考資料

ガス中毒などの中毒が生じたとき

中毒110番

日本中毒情報センター

大阪 072-727-2499 (24時間対応)

つくば 029-852-9999 (9:00~21:00)

⑨ 緊急時の記録表

(保健調査票と一緒に救急車に乗る際に持参するとよい。)

平成 年 月 日

生徒名・性別 (ふりがな)	男 ・ 女
生年月日	平成 年 月 日 生
住 所	熊野町
電話番号	
既往症	ある () ・ なし
意識の有無	ある ・ なし
脈 拍	(1 分間)
体 温	度
頭部打撲	ある なし
外傷の部位	
事故の原因	